法人（事業所）理念		「生きる力を家族とともに育てる療育～ちいさないっぽ みんなのよこび～」		
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係法令を遵守し、適正な療育支援サービスの提供に努めます。 ・ 「親子療育」を通して発達に心配がある乳幼児とその親の育ちを援助します。 ・ 実践を研究し、人間性豊かな職員を育成します。 ・ 障がい幼児の早期療育支援システムの充実のため、関係機関と連携をすすめます。 		
営業時間		8 時 30 分から 17 時 15 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課のある学園生活を通して生活リズムを整え、バランスのとれた食事や運動などにより、毎日を健康に過ごせる体をつくります。 ・ お子さまの心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった状態を速やかに見つけ出し、必要な対応を行います。その際、意思表示が困難であるお子さまの小さなサインでも心身の異変に気づけるよう、きめ細やかな観察を行います。 ・ お子さまが食事、排泄、睡眠、衣服の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面における環境の工夫を行いながら、お子さまの状態に応じて適切な時期に適切な支援をします。 ・ 給食では、楽しく食事ができるように、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、道具の使用、摂食、食事のマナーを育てます。管理栄養士の立てる献立により、栄養とお子さまの状況に配慮した食事を提供します。 ・ 排泄では、トイレに行きやすい環境を整え、お子さまの年齢や発達状況に応じて、トイレに座る、定時誘導でトイレで排尿するというステップを積み重ね、自立を目指します。 ・ 着脱では、お子さまに合った方法を探し、丁寧に教えることで、「自分でできた」という経験を積み重ね、自立を目指します。 ・ 身の回りについては、自分の持ち物を毎日の生活の中で使うことで家庭でも同じような生活用具を使うことができるよう支援します。 ・ 散歩・山のぼり・運動あそび・水あそび（プール）など、体をつかった遊びを多く取り入れます。 ・ 体づくりとともに遊びを楽しむ心を育てます。・嘱託医による内科、耳鼻科、眼科健診の他、検尿、歯科健診、視機能スクリーニングを実施します。 ・ 発作のあるお子さまに対しては、主治医の指示に基づいて発作時の対応を行います。 		
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ マットやトランポリン、遊具、プール活動などで体の動かし方やコントロールをする力、体幹機能を高めます。楽しい場所まで散歩することで自力での歩行や、日常生活に必要な移動能力の向上を支援します。 ・ 一人一人の感覚の特性（感受さや反応の低さ）に合わせて、少しずつ楽しめる環境を設定することで、受け入れられる、楽しめる遊びへと発展させていきます。季節によって散歩や水遊び、ポディーペイント遊びやどろんこ遊びなどを通して楽しみながら活動をします。 ・ 座る姿勢が保持しにくい場合は、椅子の工夫をします。 		
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人と一緒に、見る、触る、聞く、嗅ぐ、味わうといった、五感を使った遊びを通して発達を促します。 ・ お子さまの視線や表情を注意深く観察し受け止めることで、主体的な行動へと繋がります。 ・ 一人一人の好きな感覚や興味に寄り添い、活動に取り入れ興味を幅を広げることで、行動調整、適切な行動をする力を育みます。 ・ 大人がお子さまの興味の対象となり、注目する力をつけることで知識や経験を増やし、概念形成やことばの理解につなげます。 ・ 偏食については、給食提供を通じてお子さまの発達段階や特性に合わせて、見た目や食感などを工夫し、スモールステップで取り組みます。 ・ 繰り返しの日課の中で視覚的に分かりやすくスケジュールや活動内容を提示したり、場面や気持ちの切り替えのサインやことばを用いて、お子さまがスムーズに過ごすことができる生活を探ります。 		
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事物や体験とことばの意味を結び付けることにより、言語の習得、発語を促します。 ・ 相手の思いに気付いたり、自分の思いを伝えたりするなど、信頼できる大人と気持ちのやりとりを繰り返し、コミュニケーション方法を学びます。 ・ お子さまの発達段階や特性に合わせた場面において、大人と一緒に遊ぶことで同じものを見るという共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力向上のための支援をします。 ・ 話し言葉に加え、指差し、身振り、サイン、各種の文字、記号、絵カード等のコミュニケーション手段を用いて、コミュニケーションを豊かにします。 		
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な人（とりわけ母や父等の大人）と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援をします。 ・ 大人との遊びを通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促します。感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、社会性の発達を支援します。大人を支えに出来ることを楽しんだり、苦手なことに挑戦する気持ちを育てます。 ・ 大人が寄り添った並行遊びから、大人が介入して一緒に遊んだり、大人が他児を巻き込んで一緒に遊んだり、役割交代や役割分担、発達段階に合ったルールを守って遊ぶ仲間遊びやごっこ遊びを通して、遊びの育ちを促し社会性の発達を支援します。集団に参加するための手順やルールを理解し、お子さま自らが自発的に集団に参加できるよう支援します。 		

<p>家族支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子通園と単独通園を併用し、入園当初は親子通園をしていただき、お子さまの姿を職員と共にとらえ、一緒に取り組むことでお子さまの特性を理解し、具体的に子育てを援助していきます。 ・ 徐々に単独登園（お子さまだけで通園）を増やしていくことで、保護者の方とお子さま共に安心できる環境で、お子さまの成長の過程を見守ります。また、父の療育参加を積極的に勧めています。 ・ お子さまの関わり方、発達の捉え方、就園・就学に関すること、将来のことなどを学習会やペアレント・トレーニングを通じて保護者同士での学び合いを支援します。 ・ 保護者の方に加え、きょうだいの方にもお子さまと触れ合うことができる機会を作ります。 ・ 年2回親子ふれあいデーや年1回ファミリーフェスティバルの行事を中心に日常関わる保護者の方だけでなく、祖父母や親せきの参加を積極的に受け入れ療育に参加していただくことで、お子さまの理解や育ちの応援団を作っていきます。 ・ 育児の悩みや、心配事に対し、個別懇談を行っています。 	<p>移行支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子さまの支援に関わる保育所等、児童発達支援、相談支援専門員など関係機関と情報共有をしていきます。 ・ 就園・就学に向けて、進路の選択や準備について資料を配布し、説明会を行います。 ・ 保育所等への入園に向けて、必要に応じて移行通園を行い、就園先や保護者と相談しながら進めていきます。 ・ 就園・就学先と連携し、利用児童が新しい生活にスムーズに移行するために、幼児支援教室や保育所等訪問支援など必要な支援の引継ぎや、アフターケアを行い、就園・就学後の生活についてサポートします。
<p>地域支援・地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関、保健センター、エールぎふ、教育関係機関など専門機関と連携し、地域の子育て環境や支援体制の構築を図ります。 ・ 必要に応じて、子ども相談センター、児童発達支援事業所、地域の関係者等との情報連携を行います。 ・ 岐阜市内交流保育について、岐阜市の実施要綱に基づいて利用調整を行い、交流保育先の園と連携してお子さまの経験をサポートします。 ・ 園外活動、買い物・外食体験、地域のこども園との交流などで、お子さまとその保護者が地域社会へ参加する機会を提供します。 	<p>職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園外研修 発達協会セミナー、新版K式発達検査（初級、中級）、人間発達研究所（発達入門コース、発達診断セミナー、人間発達講座）、大垣女子短期大学幼児教育学科子どもの発達と援助学コースなど ・ 園内研修 事例検討、救命救急（気道異物除去、心肺蘇生法、AED・エピペン・プログラム使用）感染対策、接遇、個人情報保護、人権、公務員倫理、ハラスメント、ヒアリング力、メンタルヘルスなど ・ 訓練 避難訓練（火災、地震、水害）通園バス置き去り防止、連れ去り防止、引き渡し、感染物対応、災害BCP、感染症対応、不審者対応、情報伝達など
<p>主な行事等</p>	<p>普段関わる機会が少ない家族が療育活動に参加する親子ふれあいデー（年3回）、収穫体験、クリスマス会、ひなまつり会、さようならの会（卒園式）など園外活動として友愛プール（年8回程度）、畜産センター、ファミリーパーク、外食、木遊館、ツナグテ、山登り、公共交通機関を利用する体験など</p>		